

番 号	23	平成27年度公共事業事後評価調書				担当課名[森林整備課]													
事業名	林道事業				事業主体	静岡県													
箇所名	天竜名古屋1線				市町村名	浜松市													
事業概要																			
受益面積	139ha	採択年度	平成7年度	完了年度	当初	H21													
					実績	H21													
事業費	当初	584百万円		実績	584百万円														
事業量	延長 2,586m (幅員4.0m)																		
事業の目的・必要性																			
<p>・天竜名古屋1線は全長2,586m、幅員4mの林道であり、浜松市天竜区佐久間町の天竜川左岸に位置する。</p> <p>・林道の受益区域139haの内、スギ・ヒノキ人工林(125ha)においては木材として利用可能な41年生以上が113ha(90%)を占め森林資源が充実している。</p> <p>そこで、森林の公益的機能の発揮のための森林整備の促進と併せ、充実する森林資源の活用、木材生産性の向上・低コスト化を目的に開設を実施した。</p>																			
事業の効果等																			
費用対効果 分析結果	前回 評価時	B/C	総費用	9.45 億円	総便益	11.21 億円	基準年												
		1.19	(事業費 : 8.72 億円 維持管理費等 0.73 億円)		(木材生産等便益 : 2.48億円 森林整備経費縮減便益 : 8.73億円)		平成21年												
	事後	B/C	総費用	9.20 億円	総便益	10.37 億円	基準年												
		1.13	(事業費 : 9.07 億円 維持管理費等 0.13 億円)		(木材生産等便益 : 2.03億円 森林整備経費縮減便益 : 8.34億円)		平成26年												
1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化																			
<p>・平成26年7月に『林野公共事業における事前評価マニュアル』の改訂があり、木材生産等便益のうち「作業道作設経費縮減便益」の計上を取りやめられたこと及び、評価の主要因である木材価格が平成21年度と比較してスギ素材価格が85%(14,700円→12,500円)、ヒノキ素材価格が73%(23,200円→17,000円)と低下傾向にあるため、総じてB/Cは減少傾向にある。</p>																			
2) 事業効果の発現状況																			
<p>・林道の開設に伴い当該地域における平成10年度から平成26年度の森林整備実績は29.9haと、すでに受益区域の約22%で森林整備が実施されている。</p>																			
<p>受益区域(139ha)における森林整備実績 (H10~H26) 延べ面積</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>間伐</th> <th>主伐</th> <th>造林</th> <th>下刈り等</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>面積(ha)</td> <td>21.9</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>4.0</td> <td>29.9</td> </tr> </tbody> </table>								区分	間伐	主伐	造林	下刈り等	合計	面積(ha)	21.9	2.0	2.0	4.0	29.9
区分	間伐	主伐	造林	下刈り等	合計														
面積(ha)	21.9	2.0	2.0	4.0	29.9														
<p>・受益区域内で高性能林業機械化の活用、生産コスト低減に寄与する森林作業道が1,600m開設されている。</p>																			
<p>受益区域における森林作業道開設実績</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>延長(m)</td> <td>1,600</td> </tr> </tbody> </table>								延長(m)	1,600										
延長(m)	1,600																		
事業により整備された施設の管理状況																			
<p>・管理者である浜松市は、林道開設後、定期的な点検・補修等の適切な維持管理を行うとともに、県単補助事業等による法面改良工事を実施するなど機能向上にも努めており、管理状況は良好である。</p>																			

事業実施による環境の変化

- ・秋葉寺（しゅうようじ）奥之院を中心とした地域活動の活性化
開設された当該林道を活用し、林道終点付近から地元住民等により「秋葉寺奥之院」への歩道が整備された。この結果、当該林道から20分程度で到達可能となり、アクセス性の向上が図られ毎年8月に行われる例祭に多くの人が訪れるようになるとともに、地元住民等による「奥之院」を拠点とした地域活動の活性化がみられた。
- ・治山施設の資材搬入路としての活用
開設された当該林道を資材搬入路として活用し、荒廃が進み下流の上平山集落への影響が危惧されていた「名古屋沢」に治山ダムの建設が実施された。これにより、地域の防災性の向上が図られた。

社会経済情勢の変化

- ・県では、「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト」に取り組み、平成26年度末に榎ノダによる新たな合板工場が稼働、県内に50万㎡の原木の受け入れ態勢が構築された。
- ・今後は、県内50万㎡の需要に対する木材の安定供給に向け、県内における木材生産量の約1/3を占める天竜地域への期待は一層高まっており、当該林道沿線の森林もその活用が期待される場所である。
- ・浜松市では、平成32年開催の東京オリンピックを、国際的な森林認証（FSC）を受けた天竜材を売り込む絶好のチャンスとして、販路拡大に取り組んでいる。
- ・また、林道の整備をきっかけに当該林道周辺においてFSC森林認証取得の気運が高まっている。

※FSC：適切な森林管理を評価し、そこから生産される木材の利用を進める「森林認証」を実施している国際認証機関

対応方針（案）

（1）評価結果

事業効果は十分発現しており、改善措置の必要性はない。

- ・本路線を開設したことにより、当該林道から分岐する森林作業道の開設が1,600m実施された。
- ・受益区域内においては事業採択時の目標である10年間10%を超える29.9ha（22%）において森林整備が実施され、約1,600m³の木材が生産されるなど事業効果は発現している。

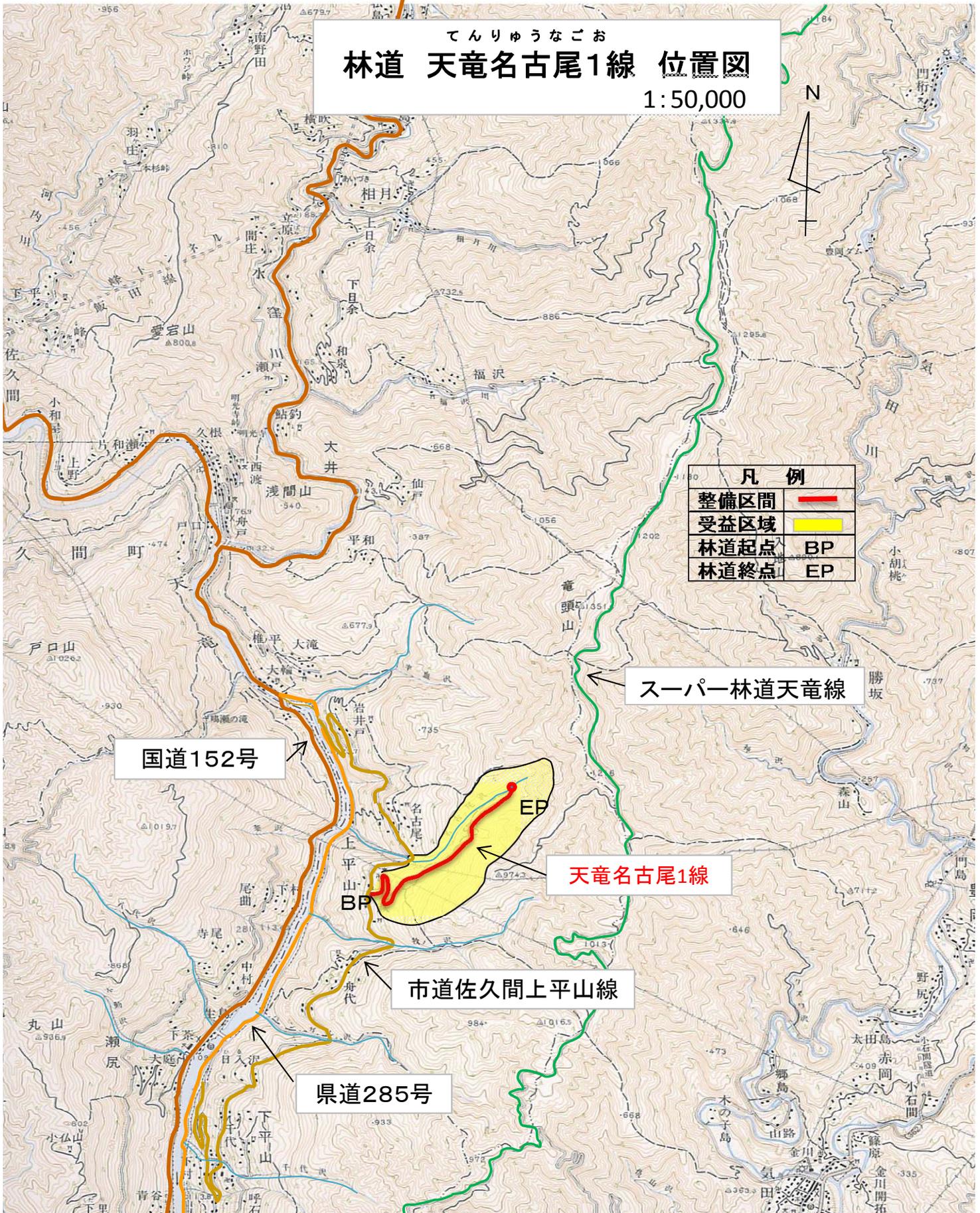
（2）今後の課題等

- ・新たな合板工場の稼働等の社会情勢の変化により、安定供給体制の構築が求められるため、FSC森林認証の取得を市と連携して進めながら、計画的な木材生産のために森林経営計画の作成支援をより一層進める必要がある。

（3）同種事業への反映等

- ・本事業の成果として所有者自らによる森林作業道の開設や目標を上回る森林整備の実施は、市や地域住民と密接に連携して取り組んだ結果である。したがって、このような仕組みづくりを同種事業でも取り入れていきたい。

てんりゅうなごお
林道 天竜名古屋尾1線 位置図
 1:50,000



国道152号

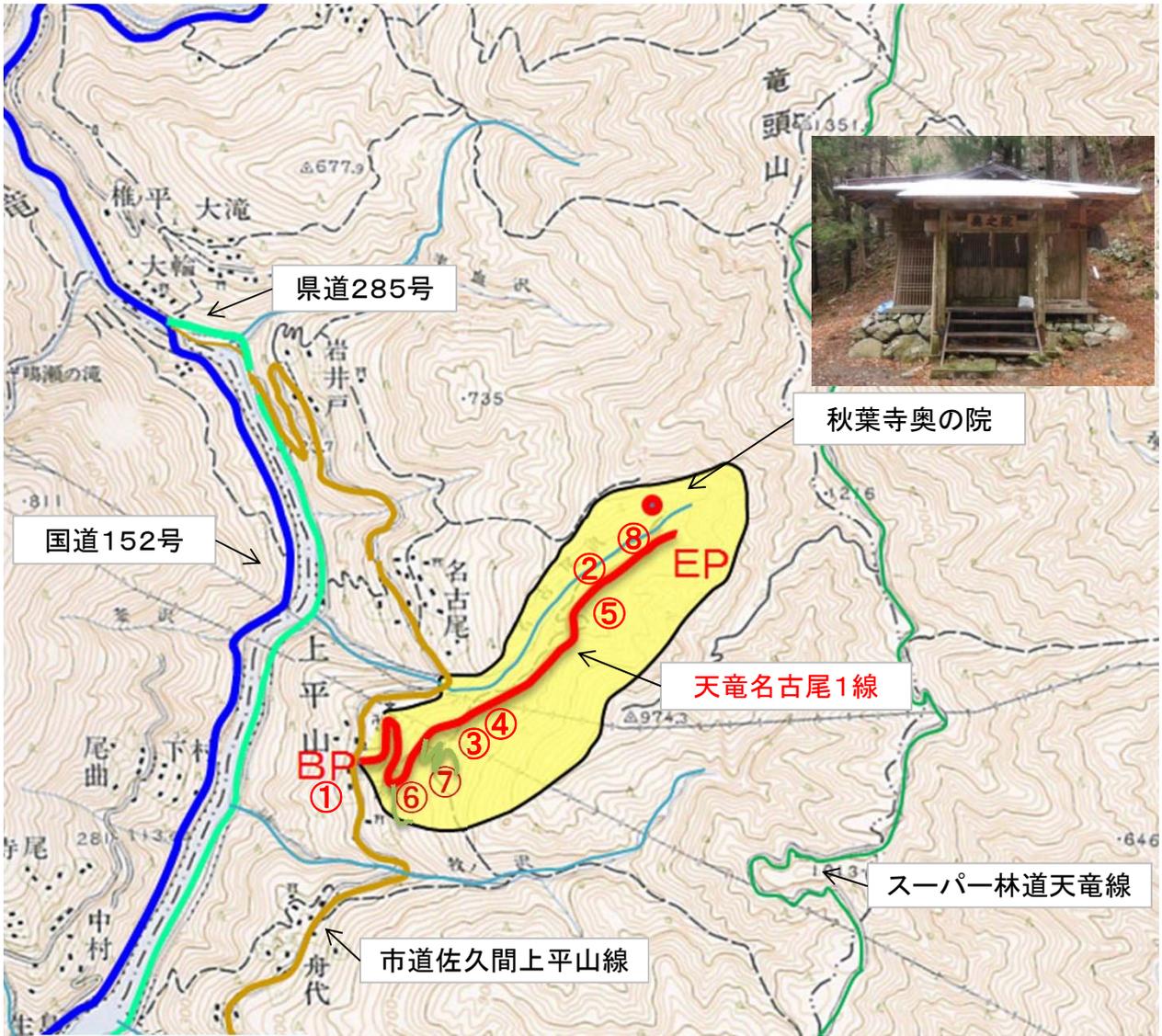
スーパー林道天竜線

天竜名古屋尾1線

市道佐久間上平山線

県道285号

林道 天竜名古屋1線 資料



路線現況写真



①起点付近の状況



②林道の状況



③造林箇所遠景



④保育(下刈)状況



⑤森林整備状況(間伐)



⑥林道沿線の森林作業道その1



⑦林道沿線の森林作業道その2



⑧林道沿線の治山ダム